

常任委員会行政調査報告

【総務常任委員会】

〈協働のまちづくり〉

調査地：長野県小布施町

調査項目：地域ブランドと街並み整備について

調査地の概要：小布施町は善光寺平の北東に位置し、長野市から十五km圏にあり、松川、千曲川、篠井川に囲まれた扇状地で人口一万四千四百六十人、面積十九km²の小さな町である。地域の特産物は扇状地と寒暖の差が大きい気候を生かして、りんご、ぶどう、もも、栗などの果樹生産が盛んである。

調査のまとめ

- ① 「栗と北斎と花のまち」をキャッチフレーズにした町づくり、葛飾北斎の肉筆画が多く保存展示されており、年間百三十万人の観光客が訪れる。
- ② 北斎館などの美術館、博物館が官民合わせて十七施設（町営四施設）、宿泊施設四施設、温泉二施設、栗菓子製造販売店、食事、土産品店などがあり、町の中心部は多くの来訪者で賑わっている。
- ③ 景観形成重点地区を定め、建築物の景観基準を定めて和風建築で統一されている。ブロック塀が無く、七十四軒のオープンガーデンが登録されており、誰でも自由に個人の庭を見ることが出来る。
- ④ 小布施町の町づくりは、町民との協働がなければ成し得ない事業である。本町においても具体的な町民との協働事業を提案すべきである。

【教育福祉常任委員会】

〈保育所建設に生かせ〉

調査地：群馬県明和町

調査項目：幼稚園、保育園の一体型「明和こども園」について

調査地の概要：群馬県の東南端に位置し、面積十九・七km²で標高二十mの平坦地である。日本一を誇るカーネーションを始めとする花卉栽培、良質の梨栽培が盛んな一方内陸型の先端工業都市が共存する町である。東武伊勢崎線で首都圏まで約1時間圏内で、東京への通勤者も増加している。

調査のまとめ

- ① 平成十二年に、それぞれ三施設ずつあった幼稚園と保育園を統合し、全国でもめずらしい幼稚園と保育園の合築園舎を整備し、一貫した幼児教育、保育の実現を目指した。
- ② 幼児教育と子育て支援の観点から保護者の就労の有無や形態に区分されない一元化した幼児教育・保育の実現を目指して、定員三百名の「明和こども園」が設置された。
- ③ 保育料は午後二時まで同一料金とし、それ以降は所得による応能負担としている。本町においても平等で魅力のある乳幼児の育成環境を構築する必要がある。